



### I-OWA マンスリー・セミナー講演より ハッピー・マネー®教室で子どもたちに伝えたいこと

講演： 岡本 和久  
レポーター： 赤堀 薫里

子ども向けのマネー教育を始めてちょうど15年目です。起業をしてから、はじめは大人向けの投資教育をしていましたが、経済同友会の出張授業に参加することで、中学、高校で話をすることが増えました。気がついたことは、大人もお金や投資のことを知らないけれど、子どもはもっと何も知らないということ。それは、日本が抱える非常に大きな問題でしょう。

授業では、最初に「何のために生きているのか」、人生の目的について考えてもらいます。ほとんどの子供はそんなことを考えたことがないのでしょう。お金持ちになるために毎日働いているわけではないし、偉くなるためでもない。子どもにとってみれば、人生の目的が、良い学校に入るためでもなければ、安泰な会社に就職することでもない。



人生の目的は、お金持ちではなくて、しあわせ持ちになることです。しあわせ持ちになるための富を表したものが「幸せの六角形～六つの富(ふ)」です。それらは、①お金(Financial Asset)、②健康(Fitness)、③家族(Family)、④友達(Friend)、⑤趣味(Fun)、⑥社会貢献(Philanthropy)です。英語では、どれも「フ」の音から始まっています。」それで「六つの富(ふ)です。この六角形ができるだけバランスがとれ、外側に広がっていると幸福感が高いのではないかと思います。」

長い人生は3つの時代に分けて考えられます。最初の三分一ぐらいは『学びの時代』です。次が『働きの時代』。そして、定年退職やリタイアをして『遊びの時代』に入ります。遊びとは、自分が一番やりたいことをすると、それが世の中のためになるということ。それが本当の意味での『遊び』です。子ども達にとって今は『学びの時代』です。『働きの時代』に入った時に、どのようにして社会に貢献していくのか。その技術を身につけるためにいろいろなことを勉強しています。働きの時代は、



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

社会に貢献できるための学びです。先ほどのしあわせの六角形で言えば、仕事はお金と社会貢献と楽しみ、この三つの要素が合体したものです。

お金っていったい何だろう。お金がないと生活ができないし、必要なものが買えない。お金があって必要なものや欲しいものが買えたら『ありがたい。嬉しい。助かる』。だから大切なお金を払うのです。要するにお金は感謝のしるしです。これは基本的なコンセプトであり、一番子ども達に知ってもらいたい部分です。金を得るために仕事をします。仕事とは世の中に仕えることであり、世の中のためになることをします。そして、みんなから感謝されて受け取るお金が貯まると信用が増えていきます。信用が増えていくと、ビジネスが上手くいきます。感謝の貯金箱にお金の形で感謝が入ってくるとそれが信用になっていく。人から感謝をされずに人からお金だけ奪うと、すぐに見つかりひどい目にあいます。感謝と一緒にお金は世の中を巡る。お金と信用はすごく密接につながっているということです。

世の中に貢献して、自分の楽しみにもなってお金を得る。その得たお金をどのように使っていけばいいのか。自分の幸福感を最大化できるお金の使い方が、ハッピー・マネー<sup>®</sup>四分法です。つかうお金、ためるお金、ゆずるお金、ふやすお金と4つに分けて管理すれば、幸福感が最大化します。

四分法の優れている点は、意識の時間軸と空間軸を広げていく効果があることです。品格の高い人は、時間軸や空間軸を広く持っている人です。自分のことばかりではなく人のことも考えられる。今のことばかりではなく、ずっと将来のことも考えられる。そういう人こそ品格が高いと考えています。私は人間としての教育と成長は、大人も子どもも、まず品格を高める。品格を高めるといって縁がないように思うけれど、全ての人が、今の自分という小さな箱から一歩踏み出して、少し先の事も考える。世の中のことも考える。そこから始まっていくわけです。

講演では、お金の歴史について、ハッピー・マネー<sup>®</sup>四分法の解説。起業の意味や心構え、ベーカリーの起業を例に、株式と債券の説明。お金と投資で学べることを解説くださいました。最後に、教育の目的は『その子が人生の最後の日を迎えるときに『良い人生だったな』と思えるようにしてあげることであり、親が子どもの教育をする上での目的でもあります』と結ばれました。